

# 新<sup>しん</sup> 緑<sup>みどり</sup> ニュース



病院の理念

確かな医療技術  
やさしい対応  
地域への貢献

さんきがい よこはましんみどりそうごうびょういん  
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院  
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7  
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271  
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



## 中高年の股関節の痛み、主な疾患は？

整形外科 医長 葛西 亨

代表的な疾病は変形性股関節症です。立ち上がる時や歩き始め、たくさん動いた後などに痛みを生じやすく、股関節だけでなく、太ももや膝などにも痛みを感じることがあります。日本人の場合は女性に多く、変形性股関節症の原因の約8割が股関節の発育障害である寛骨臼（かんこつきゅう）形成不全です。これは股関節の受け皿（寛骨臼）が浅いため、太ももの付け根（大腿骨頭）を十分に被覆できず収まりが悪い状態で、一部に過度な負担がかかってしまいます。その結果、年齢とともに筋力の衰えがあると股関節の求心性を失い、軟骨が摩耗して変形を来し、痛みや動きにくさといった症状が出てきます。

昨年の総務省の調べでは65歳以上の準高齢者以上の方は総人口に占める割合は29.1%で約3割となりました。本邦における人口のボリュームゾーンの方が高齢者となり2040年代まで増え続けると試算されており、こういった症状がでてくる方々が増えてくると考えられます。

### ●変形性股関節症に対する治療は？

まずは保存療法です。一般的には薬物療法、運動療法です。前述の筋力低下が変形の進む一因ですので、リハビリテーションを行います。特に中臀筋が股関節の安定性に寄与するため中臀筋のトレーニングが重要です。

運動療法、薬物療法も効果が乏しくなっている方は手術療法をおすすめします。

### ●手術方法はどのような治療なのか？

変形性股関節症に対する代表的な手術には、骨切り術と人工股関節置換術があります。年齢が若く、変形が軽度で軟骨が残っていれば、骨切り術といって、主には骨盤にノミを入れて受け皿側の形を変えることで骨頭をしっかりと被覆するように調整する手術があり、ご自分の関節を温存できますが、骨の癒合とリハビリテーション、社会復帰にはやや時間がかかるのが一般的です。

一方で、人工股関節置換術は、傷んだ部分を取り除き、人工関節に置き換える手術で、術後早期から痛みが軽減し、社会復帰も早いです。

以前は人工関節の耐用年数が短く、50～60歳頃までは手術を回避するほうが無難とされていましたが、近年ポリエチレンの材質の向上やインプラント設置の正確性の向上から長持ちするようになりました。そのため、高齢の方だけでなく40～50代という若い年代でもこの手術を希望する方が増えてきております。



人工関節置換術

また80代以上で骨粗鬆症があるから手術が心配であったり、単純に高齢だからという理由で諦める方もおられますが、人工股関節の粗鬆骨に対する様々な工夫で問題なく手術を行っておりますので、諦めずに一度ご相談下さい。

痛みがとれることで、日常生活の中で、できなかった事ができるようになる、たくさん歩いても痛くならなくなって出かける機会がふえる事などが、総合的に健康寿命の延伸に寄与するものと考えます。

WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

病気や健康に関する情報を発信しています。Web版みんなの健康講座はホームページ、スマートフォン（QRコード）からいつでもご視聴いただけます。



## 紹介受診重点医療機関として公表されました

2025年4月より当院は紹介受診重点医療機関として神奈川県に公表されております。

紹介受診重点医療機関とは、かかりつけ医などからの紹介状を持って受診いただくことに重点を置いた医療機関です。手術・処置や化学療法等を必要とする外来を行っている医療機関で、国の制度に基づき都道府県が指定します。

2025年7月1日より紹介状なく受診した場合は、通常の診療費とは別に「**選定療養費**」(初診時**7,700円**、再診時**3,300円**)が原則必要となります。

皆様には紹介受診重点医療機関についてご理解をお願い申し上げます。

### 新入職 新任医師ご挨拶

#### 《内科》医長 坂間 玲子 (さかま れいこ)

初めまして。4月から内科で勤務させていただくことになりました坂間玲子と申します。これまで総合診療科医として、大学病院および一般病院にて診療に従事してまいりました。

日本の少子高齢化に伴い、多疾患併存患者さんが増加し、「治し・支える」生活支援型医療へと変化しつつあります。年齢に関わらず不安を抱える方々に対して、当院の多職種チームや地域の医療機関の先生方と連携しながら、「二人主治医制」の発展に尽力したいと考えております。

どうぞよろしく願い申し上げます。

<専門> 総合診療科

<資格> 日本専門医機構 総合診療専門医・総合診療専門研修特任指導医

日本内科学会 総合内科専門医、日本老年医学会専門医・老年科指導医、高齢者栄養療法認定医

日本病院総合診療医学会 病院総合診療指導医、日本医師会認定産業医、ECFMG certification



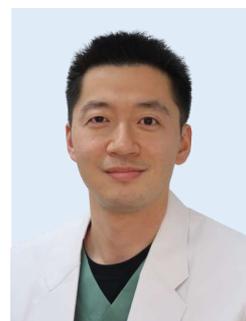
#### 《脳神経外科》医長 石和田 幸弘 (いしわだ ただひろ)

初めまして。石和田幸弘と申します。山梨大学を卒業後、東京医科歯科大学附属病院およびその関連病院にて16年間勤務させていただきました。専門は脳卒中の外科治療、血管内治療ですが、脳神経外科の疾患に幅広く対応させていただきます。優しく丁寧な診療、安全で確実な手術を常に心がけておりますので、ぜひお気軽にご相談ください。どうぞよろしく願い申し上げます。

<専門> 脳卒中の外科治療、血管内治療

<資格> 日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医

日本脳卒中の外科学会技術認定医・指導医、日本脳神経血管内治療学会専門医、医学博士



### 近隣の医療機関と連携の会を開催しました

4月14日(月) 当院にて、元気会横浜病院、竹山病院、よこはまあおとクリニックをお招きし連携会を開催しました。

医療機関は急性期、回復期、慢性期、在宅医療など様々な役割を担っています。地域の中で医療機関同士がお互いの役割や機能を相互理解することで、患者さんの状態に合った適切な医療サービスを提供出来ると考え意見交換を行いました。当院からは、医師の他に看護師、リハビリ、栄養士など総勢70名を超える多職種が参加し大変活発なディスカッションを行うことができました。院内外の参加者から「近くにあるのに機能をよく知らなかった」「ぜひ連携を図りたい」など前向きな感想が聞かれ、今後の連携につながる有意義な機会となりました。

### 今年も回復期病棟入院患者さんと花見をしました

医師の許可のもと、毎年回復期リハビリテーション病棟では、歩けない方であっても、車いすで季節を体感して頂く為に花見をしています。今年も開催しました。スタッフが車いすを押して近隣の公園まで移動し、桜の木の下から花を見上げました。「入院していても花見ができると思わなかったよ」「思い出になった」という喜びの声を多数頂きました。また一緒に記念写真も撮り、ご家族にも共有させていただきました。今後も、季節を感じていただけるイベントを開催し、回復の援助を続けていきます。

